

広告

毎日が楽しい認定こども園

わたしたちが大切にしている保育のかなめ4つ

①こどもの主体性を大切に生活します

②実体験を大切に活動を通じ学びを積み上げます

③あたたかな人間関係の中で子どもたちを育みます

④モンテッソーリ教育の考え方を基本として保育教育を行います

地域交流保育「みんなおいでよ」

時間：各日10:00～11:00(園児と一緒に活動するときは9:45～10:45)

対象：乳児、幼児の親子

交流保育日の1週間前までにご予約ください

日付	テーマ	内容
8/22(金)	みずはいいきもち	水の感触を楽しみながらあそぼう
9/12(金)	えんていであそぼう	園のお友達と園庭でのびのびとあそぼう
10/10(金)	はやしであそぼう	園のお友達と近くの林へ行ってあそぼう
11/14(金)	やさいにふれてみよう	色々な野菜を触ってみよう
12/12(金)	クリスマスを楽しむ	クリスマスにちなんだ遊びや製作をしよう
翌1/23(金)	たのしいゆきのせかい	園のお友達と雪遊びを楽しもう

学校法人 鶴岡学園 幼保連携型認定こども園
北海道文教大学附属幼稚園

tel.0123-29-6317

受付時間：10:00～11:30
住所：恵庭市漁町396番

ちとせくうこうのはじまり

アイヌ語 自由はサケをとれるわけではなく、行政から特別に許可が得られたサケがこの日だけ放流されます。そこでアイヌ民族の伝統漁法であるマレク漁を行い、捕獲した一匹のサケを来賓として歓待します。

その九

さて、待ちに待った飛行機が、飛んでくる日です。手作りの飛行機には、千歳村だけではなく、噂を聞いた隣まちからも、たくさんの人が押し寄せていました。「あー！はるか遠くに、豆粒のような飛行機が見えたかと思うと、すぐに鳥の大きさになり、ぐんぐん、ぐんぐん近づいてきました。みんなは、手を振って飛び上がり、大喜びしました。」

作・画／千歳航空協会 企画・監修／千歳市空港開港100年記念事業実行委員会

18th ANNIVERSARY

8月9日(土)より
ドレモルタオ18周年祭開催

平素より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
「ドレモルタオ」は、おかげさまで2025年8月9日(土)に18周年を迎えます。
このたび18周年を記念して、**周年祭限定仕様の特別カフェメニュー**(8月9日～11日まで)や、限定商品として人気商品「ふわ生食パン」に、北海道産ハスカップとクリームチーズを合わせた**18周年記念限 記念ブレッド**をご用意いたしました。(8月9日～8月17日まで)
皆様のご来店を心よりお待ちしております。

ドレモルタオ
Nostalgic Modern LeTAO
Northern Sweets Manner

千歳市朝日町6丁目1-1
TEL 0123-23-1566
営業時間 10:00～18:00
(8月9日～17日まで全日)

まちライブラリー MACHI LIBRARY

わたしの「生活史」

まちライブラリー@ちとせの文章教室「書くまちライブラリー」の参加者による作品を掲載します。教室参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

#29 忘れ得ぬ8月

石岡 清司(88歳・無職) 千歳市

この17日で89歳を迎える。樺太(サハリン)の豊原(ユジノサハリンスク)郊外で、農牧場経営者の次男に生まれた。終戦の1945年8月。生涯忘れ得ぬ出来事が次々と襲った。父はその年の4月に病死。私は9歳だった。母ときょうだい4人の一家に退避の通達 came。迫りくるソ連軍を背に、たどり着いた港で緊急疎開船の泰東丸に乗り遅れ、絶望感で天を仰いで泣いた。後に船が留萌沖で、魚雷により沈没したことを知った時は仰天した。わが家に戻ったところ、夜にソ連兵が侵入。銃殺も覚悟したが、母の機転で泣きわめくなど徹底的に反抗。ソ連兵は立ち去り無事だった。後で分かったが青年団の兄の同級生は護国神社境内で、向かいの妊娠10カ月の女性は腹に物を隠していると誤解され、それぞれ射殺された。一家は47年に日本に帰還した。戦争は何の罪もない住民の命を奪う。戦禍の中東のガザ地区。犠牲になるのは常に弱者だ。「二度と戦争は嫌だ」。心の底から思う。

イベントのお知らせ

ちとせまちライブラリーブックフェスタ 2025開催

りんご箱を活用した本棚を並べ、本を通じた出会いや交流を楽しむイベントを今年も開催します。「りんご箱書店」と題し、青空古本市がメインとなります。1日限りの書店の店長になって、本を通じた交流を楽しんでみてはいかがでしょうか？

日 時 9月7日(日) 11時～17時

会 場 グリーンベルト わんぱく広場

出 展 料 500円より(りんご箱付き)

出店内容 古本市がテーマですが、自作の本、ハンドメイド作品の展示や販売ができます。(飲食物は不可) その際、必ず本を1冊以上入れてください。

※申込、詳細はまちライブラリー@ちとせまで。
電話 0123-21-8530、メール machilibrary.chitose@gmail.com

まちライブラリー@ちとせ 登録料500円で、どの地域に住む方も会員登録が可能。2週間3冊の本の貸出や、館内でのイベント開催、Wi-Fiなどの設備を利用できます。
千歳市末広6-3 【営業時間】10:00～20:00(火曜定休) 【問合せ】TEL0123-21-8530
アルファ千歳ビル1階

ゆーじの

まいにちがアイヌ語 びより vol.39

アイヌ語講座

9月7日(日)、千歳市蘭越・名水ふれあい公園隣の長沼用水取水口にて、アシリチエブノミが開催予定です(正式な告知は千歳アイヌ文化伝承保存会HPをご覧ください)。アシリ(新しい)チエブ(魚)ノミ(を祭る)は千歳アイヌ民族の最も大きな行事です。明治以前には自由に、自分たちの主食としてアイヌ民族はサケ漁を行っていました。秋に遡上するサケをいただく時にカムイに感謝を捧げるためにこの儀式がありました。

しかし政府による禁漁や文化抑圧政策によって、長年儀式は途絶えていましたが、20世紀末になって復活しました。ただ自由にはサケをとれるわけではなく、行政から特別に許可が得られたサケがこの日だけ放流されます。そこでアイヌ民族の伝統漁法であるマレク漁を行い、捕獲した一匹のサケを来賓として歓待します。

千歳川のそばにカムイノミ(カムイにお酒を捧げて祈る儀式)のための囲炉裏とヌササン(イナウが並べられた祭壇)が作られます。儀式の途中ではカムイと先祖に喜んでもらうための歌と踊り…ウポポウホリツパが披露されます。丸木舟に乗ったマレク漁は毎年体験参加ができます。

体験漁や歌と踊りもありますが、基本はカムイノミです。

毎年、来てくれた方に儀式は公開されますが、アイヌ民族にとつて最も大事な時間でもありますので、主催者からのルールを必ず守って、アイヌ語がわからないことと共に新しいサケを迎えることへの感謝を思っています。

イラスト/ステファニー・ナナ

文：ゆーじ(山田 雄司) 2001年より、千歳アイヌ文化伝承保存会会員。千歳市のアイヌ語講座で講師を担当。妻は新冠町出身でアイヌ神謡・民謡を唄うスズサップノ良子。
問い合わせ／千歳アイヌ文化伝承保存会 TEL0123-23-4964